

塗装で失敗しない



7の掟

はじめに

この度は「塗装で失敗しない7つの掟」をご覧頂き有難うございます。この資料では、お客様の目線に立って『何を根拠に塗装業者を選べば良いのか』という事について解説いたします。弊社も塗装業者の1社ではありますが、弊社の宣伝は一切抜きにして解説いたしますので、どうかお客様の塗装業者選びにお役立て頂ければ幸いです。

塗装工事は皆さまご存じの通り決して安い買い物ではありません。安くても数十万円、大規模改修となると数百万円以上もの金額になる事もあります。それだけ大きな出費であることから、業者選びは慎重にしなければなりません。

「旨い!」「安い!」「早い!」は、何処かの牛丼屋さんのキャッチフレーズでしたが、塗装工事の場合は、「巧い!」「安い!」「長持ち!」でしょうか・・・。
『**良いものが安い!**』・・・これは理想だと思えます。
しかしながら、現場での手作業が主になる塗装工事では、3つの相反する条件を全てクリアーするという事は至難の業と言えます。

「安い!」だけを基準にした業者探しなら比較的に見つける事ができます。片っぱしから見積りを集めて、その中から一番安い業者の値段を引き合いにして、貪欲にもう1つ安い業者を探してください。・・・きっと見つかります。・・・但し、業者との信頼関係の点も含めてこれが一番良い選択かどうかは私には疑問が残ります。

そして次に、「巧い!」「長持ち!」を基準にした場合は、これは素人判断で見つけることはかなり難しいかも知れません。幾ら塗装作業をする「技術」が巧い「熟練工」であっても、適切な塗材・適正な工程に関する「知識」が乏しければ多くの場合長持ちは期待できません。又、これらの「技術」と「知識」があっても良い仕事をする「意識・意欲」が無い場合も考えられます。

このように考えてみると「技術」と「知識」と「意識・意欲」を出来るだけ「安く」買う事が理想と言えます。・・・そんな業者は本当に存在するのか???

トータルバランスのとれた業者であればそれは存在します。

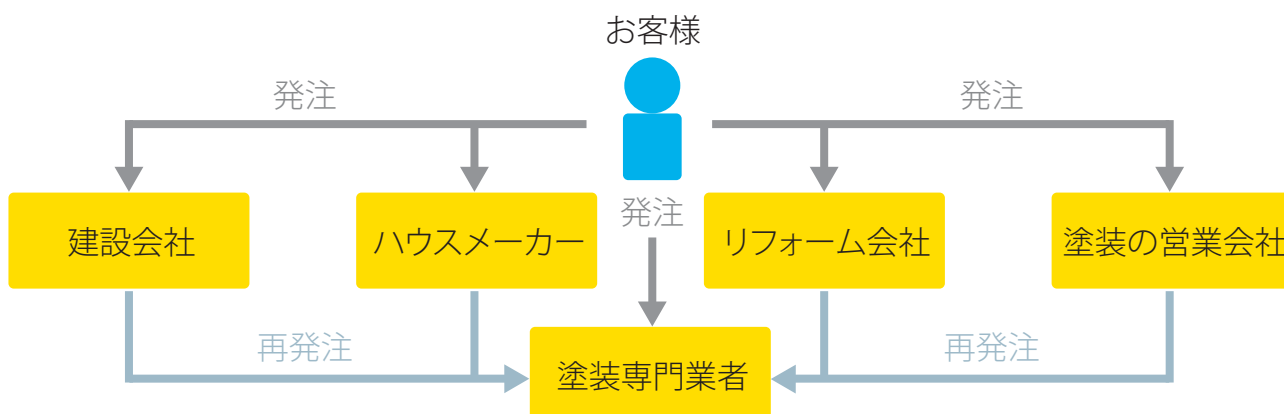
お客様が将来、後悔されないためにも、是非この資料をご活用いただき、納得いく業者選びを行ってください。

掟その1 「自社で職人を抱える専門の塗装業者に依頼すべし！」

塗装業者と一口に言っても、その業者には様々なタイプがあります。



上記5つの業者のうち、塗装専門業者とそれ以外では決定的に違う点が1つあります。それは、自社で塗装を行うかどうかです。それ以外の業者は自社で塗装職人をかかえていませんので、結局のところ塗装専門業者に再発注しているのです。



このような再発注の構造は、以下のような問題を生んでしまいます。

- 再発注の際、元請の業者は中間マージンをとるため値段が高くなってしまふ。
- 元請の業者から塗装専門業者に連絡・調整が必要なため、作業まで時間がかかりがち。
- いざトラブルが起きた際、元請の業者と塗装専門業者の2社が存在しているため、責任の所在があいまいになりがち。

必ずこのような問題が発生するというわけではありませんが、実際に施工を行う塗装専門業者に直接依頼する方が、良い品質のサービスを安く受けられる可能性は高いと言えます。

悪質な会社などは自社で職人を抱えていないにもかかわらず、自社施工だと言い張る場合があります。もし疑わしいと思われる場合には、その会社に直接行ってみてください。自社施工を行っている会社は塗装のための塗料や機材などが実際に会社に置いてあるのですぐに分かります。そして、会社としての「店舗」や「倉庫」らしき建物の実態が無いケースなどは論外です。

但し、直接塗装専門業者に依頼する際には注意しなければならないことがあります。

それは、お客様からすれば塗装工事だけだったつもりが、現場を調査してみると実際にはそれ以外に大なり小なりのリフォームが必要な場合です。

この場合、工事が複合しますので必ずしも上記の限りではありません。

その施工内容によっては一概には言えない様々なケースが考えられます。

1つ目は、塗装以外の改修規模が大きな場合は、費用面では多少高くなっても、やはり総合請負の建設会社に依頼した方がよいと思われれます。

こんな場合は、「掟その4」で御説明していますが、是非相見積りを取ってください。

2つ目は、リフォームの内容によっては、自社で施工できるような便利な塗装店もあるでしょうし、そんな塗装前の不具合を発見できるのも、ある意味、専門的な目で視るからだとも言えます。

3つ目は、自社の実績と経験などから、横の繋がりで信頼できる各専門業者とのコラボレートができる塗装店も中には有りますので、御相談されたいかがでしょう。

総合請負業者に掛りがちな大層な諸経費の、大幅カットが期待できます。

掟その2 「塗装技能士資格、および塗装工事業の許可があるところに依頼すべし！」

実のところ、塗装業というのは小規模な案件であれば資格や許認可がなくとも、ペンキとハケさえあればできてしまう商売なのです。しかし、必ず資格および許認可を受けた業者に依頼することをお勧めします。

●塗装技能士とは？

塗装技能士とは、塗装技能に関する国家資格で、大臣または県知事が認可するものです。塗装技能士には上位から特級・1級・2級・3級などがあります。

【参考：<http://www.mhlw.go.jp/bunya/nouryoku/ginoukentei/>】

最終学歴や実務年数によって受験資格取得までの年数は変わりますが、少なくとも「にわか仕込み」の塗装工では資格が取れないことは確かです。

資格を持っている全ての職人がエキスパートだとは言えませんが、少なくとも仕事に対する向上心が有ることの証明になるとともに【掟その1】でお話したように自社に職人がいることの証明にもなります。

●塗装工事業の許可とは？

塗装工事業許可とは、建設業許可の一つで、国土交通大臣または県知事が会社に対して認可を行います。500万円以上の塗装工事を請け負うのに必要な許可であることから、この許認可を受けているということは比較的大きな規模の塗装作業もこなせるということの証明になります。



この許可を受けるためには、法第7条に規定する4つの「許可要件」を備えていること及び同法8条に規定する「欠格要件」に該当しないことが必要です。

【参考：<http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/const/kengyo/kyoka01.htm>】

許可を持っている全ての業者がしっかりとした業者だとは言えませんが、少なくとも店の営業意識をはっきり持った業者と言えます。

●上記を総じて言えることは？

個人としての技能資格は持っているが店(会社)として許可は持っていない場合は、店構えに不安が残ります。店(会社)として許可は持っているが技能資格者がいない場合、施工資質に不安が残ります。

上記2つが整っていないと「駄目な業者」というわけではありませんが、安全の為ここは消去法的に選択肢から外するのが無難だと思います。

掟その3 「相見積りを取るべし！」

複数の会社から同じ内容の見積りをとることを、相見積りといいます。塗装の見積りを取る際には、是非複数社から見積りを取ることをお勧めします。

●相見積りのメリット

相見積りのメリットはいくつかありますが、最大のメリットは金額が安くなることです。複数社で競わせるため当然ではありますが、1社だけだとどうしてもその会社の言い値になるためです。

ただし、相見積りをとって一番安いところに頼めば良いかという、そう単純な話でもありません。なぜなら、塗装というのは依頼先によってその技術力や丁寧さなどに差があるためです。電化製品のようにどの小売店で買っても同じ性能であれば話は別ですが、塗装は安ければ良いというわけではないのです。



●では何故相見積りをとるのか？



見積りを取ると、必ず候補となる業者と電話や対面でのやりとりが発生します。その際、各業者がどのような対応をしてくれるかを直接感じ取ることができます。これが相見積りをする真の目的なのです。

丁寧な業者というのは、見積りや説明などでも同様にきっちりした対応をします。反対にそうでない業者というのはやはり丁寧さを欠いた対応になりがちです。技術的な説明を丁寧にしてくれるかどうか、納得いくサービスを提案してくれるかどうか、また担当者の人柄などももちろん判断材料です。

但し、現場の痛みを知らない営業マンの軽く滑らかな口調が良いというわけではありません。説明に来た人が現場施工に関与しない場合は、認識の違いが出てくる事があるので、そんな経営システムの業者に依頼する場合は注意が必要です。

相見積りも、実績や技術など本資料の前半で述べた部分と、対応の良し悪し、そして価格などをあわせて総合的に判断することが必要です。複数社とやりとりするのが少し手間ではありますが、最終的には満足いく塗装を安く仕上げるコツなのです。

冒頭に「技術」と「知識」と「意欲」を出来るだけ安く買う事が理想だと申し上げた事をまさにこの場で感じ取ってください。

掟その4 「見積りが明確なところに依頼すべし！」

見積りを受け取った際、どのようなところを見れば良いのでしょうか？合計金額はもちろん、塗装の見積りにはチェックしておくべきポイントがあります。

●施工内容がはっきり記載されているか

まず、具体的にどのような作業をするのかが明記されているかチェックしてください。

一般的には外壁塗装の場合では、

「仮設足場」「素地調整」「高圧洗浄」「クラック補修」「下塗」
 「上塗」「軒天塗装」「雨戸塗装」「雨樋塗装」「庇塗装」

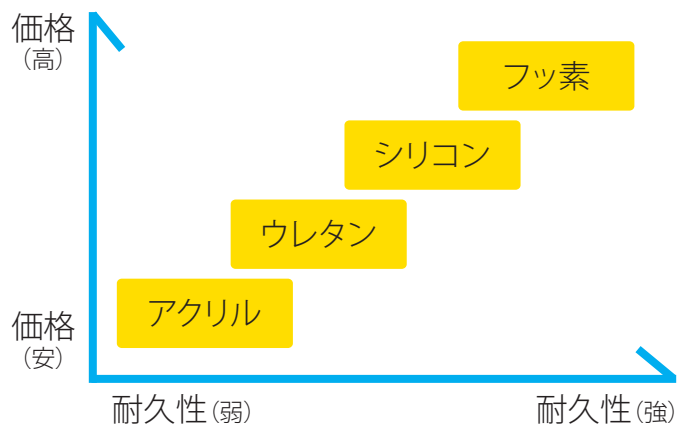
など、付帯塗装でさえ各項目毎の価格が示されています。また、塗装する面積や塗る回数なども記載されているはず。具体的な項目が書かれていないと、後から言った言わないのトラブルに発展する可能性があります。

●使用する塗料が明確に記載されているか

塗装に使用する塗料の「メーカー名」、「塗料名」、「樹脂の名前」が見積書に記載されているかどうかチェックしてください。

樹脂については

「アクリル」「ウレタン」「シリコン」「フッ素」の順に価格が上がっていき、原則その順に耐久性が増していきます(例外はあります)。



●「一式」が多すぎる場合には要注意

見積書にはたまに「〇〇一式」という項目がありますが、この一式というのは詳細を書くと複雑なため詳細項目をまとめてしまっているか、もしくは書くのが後ろめたいために一式とまとめてしまっているかどうかです。

便宜上弊社でも用いることはありますが、この一式が多すぎる場合には見積書が漠然としたものになり、注意が必要です。また、見積りの内訳が一行で「外壁塗装費(足場込み) 一式 〇〇〇円」としか記載されていないものは論外です。

●説明を求めましょう

塗装の見積書というのは専門的な項目が記載されているため、素人の方にとっては分かりにくいものです。そのような場合には具体的に各項目が何を指すのか説明を求めましょう。良心的な業者であれば丁寧に説明をしてくれるはずです。

掟その5 「下地処理を重視している業者に依頼すべし！」

塗装というのは「塗る」作業だと思われていますが、実はその前の段階から作業はスタートしています。塗料を実際に塗る前に壁の汚れを落としたり、壁のクラックをふさいだりといった「下地処理」と呼ばれる作業です。実はこの下地処理こそ塗装において最も大切といっても過言ではありません。

● 塗装の持ちを決める下地処理

塗った直後の美しさというのは、下地処理を行っても行わなくてもさほど変わりません。どれだけ壁や床が劣化していようと、塗ればその塗料の色になるからです。しかし、塗装の美しさというのは5年、10年と時間が経過しても保たれていなければなりません。

もし下地処理をせずに、または不十分な下地処理で塗料を塗ってしまうと、あっという間に塗装がはがれたり、割れたりして劣化が進んでしまいます。

● 業者による十分な下見と説明があるかをチェック

では依頼前に下地処理をきっちりおこなってくれるかどうかチェックするにはどうすれば良いのでしょうか？それは、まず業者がきっちり下見を行い、下地の状態を確認しているかどうかで分かります。

また、見積り提出時にも下地調整をどう行うのかを質問してみると良いでしょう。もし下地処理を重視している業者であれば、必ず丁寧に説明してくれるはずです。「壁を洗浄してから塗装しますよ・・・」くらいでは、丁寧な説明とは言えません。壁を洗浄（高圧洗浄といって汚れやカビを取り去る作業）は当然のことだからです。



それ以外にも、クラックを埋めるための下塗り材の塗り込みや、大きなクラックに対してはシーリング材を使った処理、また脆弱になっている箇所の塗膜の剥離やその補修工事など、下地処理には実に様々な種類があるのです。

これらをきっちり説明し、更に見積書にも明記しているかどうかを主なチェックポイントになるでしょう。

● 下地調整材と言えども、具体的な名称をチェック

素地調整材・下塗り材・コーキング材・その他の補修材も含めて、出来るだけ使用材料の名称のチェックをおこなってください。

初めからこう言った内容を明記している見積もりは比較的安心だとは思いますが、明記していなければ明記するように指示してください。その事で、業者に対する啓発にもなりますし、あなたがインターネット等で調べることも可能になります。

掟その6 「知り合いだからと言う基準だけで依頼するべからず！」

これはよくあるパターンなのですが、「知り合いに塗装業者がいるから」とか「知り合いの紹介だったから」という理由で塗装業者を決められる方がいらっしゃいます。しかしこれは必ずしも正しい判断基準だとは言えません。

●知り合いだから融通が利くというのは本当か？

「知り合いだから頼みやすい」とか「知り合いだから面倒なことも聞いてくれる」という話を良く聞きますが、果たして本当でしょうか？

確かにそういうケースはあります。

その業者が直接的な知り合いであれば、少なくともあなたにとっては悪徳業者ではないと思われます。おそらくその業者は信頼されたことによって、張り切って仕事をしてくれる事でしょう。そういう意味では知り合いに頼むことによるメリットが有ると言えます。

しかし、知り合いだからこそそのデメリットもあるという事を考えなくてはなりません。そのデメリットとは、「その業者に対して率直に意見しづらい」という点です。まず、知り合いの利益を削ることになるため、値段交渉などはしにくいでしょう。また作業中、うるさい、雑だ、マナーが悪い、といったクレームもつけにくいです。更に、もし万が一トラブルになった時に、お互いが気まずくなるケースも考えられます。勿論、そんな事を超越した深い人間関係が有れば、全ては**余計なお世話**ですが…。



理想では…

無理を聞いてくれるわ!

安くしてくれるわ!



実際には…

知り合いだけに
注文を付けづらいわ…

腕前はどうかのかしら？

●知り合いである事と、業者の質は別問題

知り合いである事と、良い仕事をしてくれるというのは全くの別問題だと考える必要があります。これまでご説明してきたように、塗装業者というのは営業体系も技術力も千差万別です。知り合いだから良いという保証はどこにも無いわけです。

先ほど述べた張り切って仕事をしてきている知り合いが、適切な塗料を使ってくれている事を祈るばかりです。

知り合いだと言う事で、その業者に対するチェックの目が甘くなったり、またチェック自体を行わなかったりしがちですが、これは危険ですので必ず客観的なチェックを入れるようにしましょう。

塗装の値打ちはその時の美しさと、施工後の経年耐久性にあります。

知り合いかどうかという事よりも、「真の技術力」と「アフターサービス」の良し悪しで御判断ください。

掟その7 「自分の家にマッチする工法を把握すべし！」

「外壁塗装」に関して塗り替えの際に留意すべき点を挙げますので、自分の家にマッチする「工法」を御自身が認識してください。

全てを業者に任せるのではなく、世間にゴロゴロ存在している「認識不足の業者」を見分ける為にも下記を有効活用して簡単な基礎知識を頭に入れておいてください。

尚、外壁の塗替え工法は多種多様ですので下記に示すものが全てではありません。あくまでも一般的な工法を想定した上での、良質な仕様を示したものです。御了承下さい。

①モルタル壁 その1

モルタル壁とは、セメントと砂と水を調合して左官塗りしたもので、その上から塗装仕上げしてあるものが一般的。既存塗膜が有る場合の塗装の留意点としては、

- クラック(亀裂)の有無／ウレタンノンブリードシーリング材での補修がベスト。
- 浮き、欠落をチェック／斜めから壁面を視て、異様な膨らみが有れば要注意。
そこを棒で擦って他の箇所とは違う軽い音がしたら浮いている証拠。
→塗装工事の前に左官工事が必要。
- 下地処理は／高圧水洗又はブラシによる水洗いで汚れを落とす。
- 下塗りは／シーラー → 密着向上の役割がある。
／サーフェーサー → 密着向上と目止め効果がある。
仕上げのパターンによってシーラー・サーフェーサーどちらかを選択。
- 上塗りは／耐候形一種がおすすめ → 2液性ウレタン・1液性シリコン・2液性シリコン・フッソなど。

②モルタル壁 その2

既存塗膜が無い(無塗装の)場合の塗装の留意点としては、

- クラック(亀裂)の有無／ウレタンノンブリードシーリング材での補修がベスト。
- 浮き、欠落をチェック／斜めから壁面を視て、異様な膨らみが有れば要注意。
そこを棒で擦って他の箇所とは違う軽い音がしたら浮いている証拠。
→塗装工事の前に左官工事が必要。
- 下地処理は／一概に高圧水洗がベストとは言えない。
掻き落としの場合は表面が非常に脆く、水の吸い込みも大きいので、高圧水洗をすることで壁材が大量に落ちてしまう事と、水分が抜けない内に塗装をしてしまつて、塗膜剥離の原因になる可能性がある。乾式での掃除、もしくは必要最小限のブラシによる水洗いが無難。
- 下塗りは／必ずシーラーが必要 → 浸透性シーラーで虚弱な壁面を固めることが第一。
- 中塗りは／アンダーフィラーかサーフェーサー → 目止め効果がある。
塗布量は少なくとも0.5kg/m²以上。

注意すべきは、アンダーフィラーかサーフェーサーを1回目塗り(下塗り)に使用しない事。
→芯からの密着は期待できない。

- 上塗りは/耐候形一種がお薦め → 2液性ウレタン・1液性シリコン・2液性シリコン・フッソなど。

③モルタル壁 その3

既存塗膜が砂状厚付け塗材の場合の留意点としては、

- クラック(亀裂)の有無/ウレタンノンブリードシーリング材での補修がベスト。
- 浮き、欠落をチェック/斜めから壁面を視て、異様な膨らみが有れば要注意。
そこを棒で擦って他の箇所とは違う軽い音がしたら浮いている証拠。
浮き、欠落があれば → 塗装工事の前に左官工事が必要。
- 下地処理は/一概に高圧水洗がベストとは言えない。
砂状厚付け塗材の場合は塗膜内に中空が多く、水の吸い込みも大きい。高圧水洗をすることで、水分が抜けないうちに塗装をしてしまつて、塗膜剥離の原因になる可能性がある。しっかりと乾燥時間を考慮した上で高圧水洗が望まれる。
- 下塗りは/シーラー又は**通気性サーフェーサー**(商品名:アンダーサーフDS)がベスト。
→塗膜内中空の空気の膨張や湿気の透湿性を考慮する。
注意すべきは、微弾性サーフェーサー(多くの塗装屋の一つ覚え)は塗膜膨張・剥離の原因になる可能性が高い。
- 上塗りは/耐候形一種がお薦め → 艶消しの水性シリコンがベスト。

④サイディング壁

サイディング壁には、窯業サイディング・金属サイディング・木製サイディング・樹脂サイディングなどが有るが、窯業サイディングが一般的。塗り替え時に共通した留意点は、

- サイディングボード間の目地シーリングの劣化
方角では、紫外線が多い南面と西面に劣化が多くみられる。
サイディングは**目地が命!**
→全ての目地シーリングの打替えがベストだが、明らかに異常がなければその部分は良しとしても、悪いところはシーリングの打替えは必須。
- 下地処理は/高圧水洗 又はブラシによる水洗いで汚れを落とす。
- 下塗りは/出来ればシーラーが必要 → 上塗り密着向上のため。
- 上塗りは/耐候形一種がお薦め → 2液性ウレタン・1液性シリコン・2液性シリコン・フッソなど。
- 下塗り上塗り共/新築以来初めての塗装なら、水性ではなく弱溶剤形の塗料がお薦め。
- 目地の上から塗装する場合/目地シール材はウレタンノンブリードがお薦め。
ウレタンノンブリードは後塗装性に優れている。密着がよい。
シール部分(目地)の塗膜表面に、経年の目地の動きによってひび割れが生じることもある。この防止策として、目地の上に微弾性サーフェーサーを中塗りする。これで、上塗り塗膜のひび割れ緩衝が期待できる。
- 化粧目地として後打ちする場合/目地シール材は変性シリコンノンブリードがお薦め。変性シリコンノンブリードは耐候性に優れている。薄層未硬化に注意する。

⑤ALC壁

ALCとは軽量気泡コンクリートの事で、サイディング同様**目地が命!**

ここでは新築ではなく、改修時を御紹介

- 目地処理は／ウレタンノンブリードシーリング増打ちがベスト。
- クラック(亀裂)の有無／ウレタンノンブリードシーリング材での補修がベスト。
- 下地処理は／高圧水洗又はブラシによる水洗いで汚れを落とす。
欠落をチェック → 欠落部が有れば／速乾モルタル・ALC補修材等で補修。
- 下塗り材は／シーラー又は微弾性サーフェーサー
- 中塗り材は／必要に応じて各種パターン塗材。
- 上塗り材は／耐候形一種がお薦め → 2液性ウレタン・1液性シリコン・2液性シリコン・フッソなど。

⑥押出成形セメント壁

押出成形セメント板は材料の厚み部分が中空になった押し出し成型されたパネル。サイディングやALC同様**目地が命!**ここでは新築ではなく、改修時を御紹介

- クラック(亀裂)の有無／ウレタンノンブリードシーリング材での補修がベスト。
- 下地処理は／高圧水洗 又はブラシによる水洗いで汚れを落とす。
- 欠落をチェック／欠落はめったに見られないが、エポキシ樹脂モルタルがベスト。
- 下塗り材は／シーラーがベスト。
- 中塗り材は／必要に応じて各種パターン塗材。
- 上塗り材は／耐候形一種がお薦め → 2液性ウレタン・1液性シリコン・2液性シリコン・フッソなど。
- 目地シールの上から塗装する場合／目地シール材はウレタンノンブリードがお薦め。

ウレタンノンブリードは後塗装性に優れている。密着がよい。

シール部分(目地)の塗膜表面に、経年の目地の動きによってひび割れが生じることもある。この防止策として、目地の上に微弾性サーフェーサーを中塗りする。これで、上塗り塗膜のひび割れ緩衝が期待できる。

- 化粧目地シールとして後打する場合／目地シール材は変性シリコンノンブリードがお薦め。変性シリコンノンブリードは耐候性に優れている。薄層未硬化に注意する。

最後に・・・

吹付けタイル・リシン・スタッコなどは、昔から新築工事の外壁塗装によく使われてきました。私自身、工場や倉庫と言った大口の吹付け・個人住宅・マンションなどの集合住宅など、多くの吹付け塗装をしてきました。新築工事現場などではダイナミックな模様が付けやすい飛び道具的な吹付けが、手っ取り早いと言う点でも向いています。

しかし、一般住宅の再塗装（塗替え）では御近所が隣接していることで、エアーコンプレッサーの音がうるさくて迷惑な事と、周りへの塗料の飛散も心配です。

コテなどを用いた単層弾性の意匠仕上げなどは、新設モルタルなどによく使われる仕様ではあるけれど、何処にでもと言うわけにはいきません。

という事で、この度は世間一般で施工頻度が高いと思われるローラー塗装を中心に書かせていただきました。

工程についてこと細かに書いたつもりですが、施工にあたって細部で留意すべき点はまだまだあります。

シール材の特徴／シーラー・フィラー・サーフェーサーの種類と使い分け／水性・弱溶剤・強溶剤・無溶剤などの上塗材と下地との関係・性質・各乾燥時間・塗布量など、文章が得意ではない私としては、口頭でもお伝えしたいと思う事は山ほどあります。

という事は、残念ながら本書だけでは「細かい説明不十分」という事になります。

言葉足らずの中途半端な説明ではありましたが『キーワード』はそれなりに記載しております。

ですので、もっと詳しく知りたい方は

インターネットで本書の中に出てくるキーワードを手掛かりにして検索してみてください。

御自身の住まいの塗替えに関するキーワードの事柄を認識するだけでも、あなたに迷いと不安が無くなり

本書の目的である「失敗しない塗装業者選び」が限りなく成功につながると思います。

最後まで読んでいただきましてありがとうございました。